

博士前期課程(修士) / 実践看護学領域 / 成人看護学分野科  
目コード:240004-0

## がん看護学演習Ⅱ Oncology Nursing II

担当教員	臺 美佐子、瀧澤 理穂				
実務経験					
開講年次	1年次後期	単位数	1	授業形態	演習
必修・選択	選択	時間数	30		
該当ディプロマポリシー	(1)	(2)	◎	(3)	○
Keywords	薬物療法、症状マネジメント、フィールド実習				
学習目的・目標	《学習目的・目標》 学習目的:薬物療法を受けるがん患者に対する生活の質向上への方略やセルフケア能力向上のために必要な支援方法について習得する。 学習目標: 1. 論文精読や演習によって、薬物療法中の患者のアセスメントができ、全人的苦悩(苦痛)への介入法を理解できる。 2. 薬物療法を受ける患者への専門看護師の役割と機能という視点を踏まえた上で個別的な援助計画を立案し、臨床に適応可能なものとして行うことができる。				
授業計画・内容					
回	内容			授業方法	担当
1	薬物療法を受けるがん患者へのアセスメント、セルフケア能力向上のための支援方法、測定ツールの必要性・評価法			講義・討議	臺
2-3	「浮腫」「神経障害」「不安」のアセスメントとセルフケア能力向上の支援方法: -各症状について、受講生のこれまでの看護実践をもとにアセスメントし、討議の中でその支援方法を検討する			演習・討議	臺
4-5	「がん悪液質」「悪心・嘔吐」「下痢」のアセスメントとセルフケア能力向上の支援方法 各症状について、学生のこれまでの体験事例をもとにアセスメントし、討議の中でその支援方法を検討する			演習・討議	臺
6-7	「脱毛」「切断等に伴う容姿の変化」のアセスメントとセルフケア能力向上の支援方法			演習・討議	臺
8-13	薬物療法における患者の症状について観察・アセスメントし、症状緩和のための支援法および患者のセルフケア能力向上のための方略について検討する			演習・討議	臺
14-15	セルフケア能力向上のための方略についてグループディスカッション			討議	臺・瀧澤
教科書	鈴木志津枝、小松浩子 監訳 「がん看護PEP リソース」医学書院、2013年				
参考図書等	随時紹介する				
評価方法・基準	グループワークやディスカッションへの態度(50%)およびレポート(50%)				
関連科目	がん看護学演習Ⅰ、Ⅲ				
教員から学生へのメッセージ	この演習では、がん薬物療法を受ける方々に対する専門的な看護実践について、症例提示やディスカッションを通して学び、理解を深めるものです。エビデンスに基づく看護実践を理解し、どのように臨床の現場に応用していくか、積極的なディスカッションを期待しています。				